

## お知らせ

記者発表資料  
配布日時

平成28年1月19日  
14:00

■同時発表先：島根県政記者会、出雲市政記者クラブ、米子市政記者クラブ、  
出雲ケーブルビジョン

# 大型水鳥類の舞う魅力的な地域づくりに向けて、 具体的な取り組みが始まります。

～「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる  
流域づくり検討協議会 地域づくり部会」及び「観光振興モニター」、  
「大型水鳥類写真展」の開催について～

中海・宍道湖圏域はラムサール条約登録湿地に代表される豊かな自然環境を有し、たたら製鉄が行われていた時期から自然と共生を図ってきた地域です。さらに、わが国の陸水域に生息する希少な大型水鳥類5種（①ハクチョウ類②ガン類③ツル類④コウノトリ⑤トキ）、これら全てが安定的に生息可能となる潜在性を持つ国内唯一の地域です。

中海・宍道湖圏域ではこれらの特色を活かし、経済界、観光、農業、漁業、行政などの多様な機関と連携・協働し、生態系ネットワーク<sup>\*1</sup>の形成による大型水鳥類と共に生きる魅力的な地域づくりを目指し、「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」<sup>\*2</sup>による取り組み<sup>\*3</sup>を進めています。

この度、同協議会の専門部会である「地域づくり部会」の第1回目となる会合を以下のとおり開催し、大型水鳥類の生息環境を踏まえた魅力的な地域づくりに向けた方策について意見交換します。また、取り組みの一環として、将来的な定期観光ツアーに繋げるため、観光協会等を対象とした大型水鳥類観察のモデルツアーや、圏域の魅力を広く一般に知っていただくための大型水鳥類の写真展を開催します。

### 【地域づくり部会】

- ◆日時：平成28年1月29日（金）14:00～16:00
- ◆場所：道の駅秋鹿なぎさ公園 研修室
- ◆内容：別紙1「議事次第（案）」参照

### 【観光振興モニター】

- ◆名称：斐伊川水系と大型水鳥類の魅力を知り、伝えてもらうためのモニター
- ◆日時：平成28年1月28日（木）午前9:00～12:00
- ◆目的：観光協会等関係者を対象とした「大型水鳥類観察」をテーマとしたモデルツアーを開催し、将来的な観光ツアー商品化、引いては観光振興に繋げる。
- ◆内容：別紙2参照

※ 一般の方の参加は受け付けていませんが、報道関係者の方については事前登録いただければ、車への同乗が可能です。別紙3の申込書により事前申込をお願いします。

## 【大型水鳥類写真展】

- ◆名 称 : 中海・宍道湖圏域の大型水鳥と水辺の大自然～斐伊川水系生態系ネットワーク写真展～
- ◆日 時 : 平成28年1月28日(水)～3月下旬の間
- ◆場 所 : 中海・宍道湖圏域の観光施設、公共交通機関等
- ◆内 容 : 別紙4参照

### ※1 生態系ネットワークとは・・・

自然を確保しつつ豊かな自然をつくっていく方法。貴重な自然を保全すると共に、細切れになった自然をつなぎ、生きものの移動経路を確保したり、自然の働きを回復させることによって、豊かな自然を再現しようとする取り組み。

生きものの視点に立ち、土地利用のあり方を考える生態系ネットワークは、生きものを守るための戦略的な方法であると共に、人間が持続的に豊かな生活を送るためのランドデザインの基本となる。

### ※2 「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」の過去開催結果については別紙5のとおり

過去の協議会資料等詳細は出雲河川事務所webサイトに掲載  
(<http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/iinkai/ryuiki/index.html>)

### ※3 取り組みの概要については別紙6参考資料参照

## <問い合わせ先>

■国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所

副所長(技) にし ひろゆき 西 博之

【担当】計画課長 すずおき まお 鈴置 真央

0853-20-1761 (直通)

斐伊川水系 生態系ネットワークによる  
大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

第 1 回 地域づくり部会

議 事 次 第(案)

日 時：平成 28 年 1 月 29 日 (金)

14:00～16:00

場 所：道の駅秋鹿なぎさ公園研修室

1. 開 会
2. あいさつ
3. 出席者紹介
4. 部会長、副部会長の選出
5. 議事
  - (1) 生態系ネットワークの概要と取組経緯について
  - (2) 大型水鳥類の生息環境整備に基づく「地域振興展開方針（案）」について
  - (3) 中海・宍道湖圏域で取り組まれている「環境保全型農業」と「観光振興」の事例と今後の展開について
6. その他
7. 閉会

## 『斐伊川水系と大型水鳥類の魅力を知り、伝えてもらうためのモニターツアー』

## 実施概要(案)

## ツアーの目的

ラムサール条約登録湿地である穴道湖・中海を含む斐伊川水系を軸として、地域を代表する大型水鳥類を指標に、河川内外の豊かな自然環境をネットワークさせ、併せて当圏域の振興にもつなげていく「斐伊川水系生態系ネットワーク」の取組が始まっています。

本ツアーは、その一環として、冬季観光資源としてのポテンシャルを有する「大型水鳥類」の魅力を関係者にご紹介し、その活用可能性のヒントを得ていただくことを目的として実施するものです。

実施日時 2016年1月28日(木) 午前9時より正午過ぎまで(雨天決行)  
※オプション観察は朝6:45 道の駅 湯の川集合

主 催 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる地域づくり  
検討協議会

共 催 出雲観光協会・(公財)日本生態系協会

協 力 (公財)ホシザキグリーン財団

出 発 地 出雲市役所または道の駅 湯の川(解散地点も同様)(移動はマイクロバスを使用)

受付開始 出雲市役所 8:00 または道の駅 湯の川 8:30

参 加 者 観光協会関係者等 25 名程度うちオプション観察への参加は 15 名程度

持 ち 物 防寒具、動きやすい服装・靴、飲み物、雨具、筆記用具、あれば観察道具(双眼鏡、カメラなど)※双眼鏡はお貸しできます



ツアー実施イメージ



大型水鳥イメージ

## ツアー実施担当者

(公財)日本生態系協会 主任研究員 柿本 恵里那

TEL:048-649-3860 Email:[e\\_kakimoto@ecosys.or.jp](mailto:e_kakimoto@ecosys.or.jp) 緊急連絡先:090-7811-8783

## ツアーの行程

- 8:30 ①' 出雲市役所出発 -  (道の駅湯の川へ移動、約 20 分) -
- 9:00 ①道の駅 湯の川出発 -  (宍道湖グリーンパークへ移動、約 20 分) -
- 9:30 ②宍道湖グリーンパーク (主催者代表あいさつ等)  
③宍道湖グリーンパーク周辺で野鳥観察  
内容: 双眼鏡の使い方、野鳥の観察方法をレクチャー  
-  (出島地区へ移動、約 10 分) -
- 10:30 ④出島地区~⑤斐伊川河口 (灘橋、又は西代橋を渡って斐伊川右岸へ)  
~⑥斐伊川右岸の水田地帯 で野鳥観察  
※鳥類の出現状況に応じて適宜コースを選択しつつ、④~⑥をバスで移動  
-  - (道の駅湯の川へ移動、約 15 分)
- 12:00 頃 ⑦道の駅 湯の川到着・解散
- 12:30 頃 ⑦' 出雲市役所到着・解散

<オプション: 大型水鳥類のモーニングフライト~ねぐらとしている「宍道湖湖心からのねぐら立ちをみよう!」~>

2000羽を超えるガンの群れが、鳴きながら頭上を飛ぶ様子は圧巻です!

集合: 6時45分、場所: 道の駅 湯の川 ※暖かい飲み物、朝食持参



朝の飛び立ちイメージ

(出雲河川事務所計画課 安部行)

FAX : 0853-21-2878 E-mail : [abe-t87ee@mlit.go.jp](mailto:abe-t87ee@mlit.go.jp)

所属名 : \_\_\_\_\_

送信者名 : \_\_\_\_\_

### モニターツアー 報道機関対象 参加登録

日 時 : 平成28年 1月28日(木) 8:30受付開始  
9:00出発  
集合場所 : 道の駅 湯の川 斐川町学頭 825-2

所属	氏名	持込み大型機材等	備考

### オプション～大型水鳥類のモーニングフライト～ 報道機関対象 参加登録

日 時 : 平成28年 1月28日(木) 6:45受付開始  
6:50頃出発

集合場所 : 道の駅 湯の川 斐川町学頭 825-2

所属	氏名	持込み大型機材等	備考

#### 記載注意事項

- ◆バス座席を確保しますので、バスに乗車される全ての方のお名前を記載下さい
- ◆テレビカメラ、三脚等の大型機材・荷物等をバス内に持ち込まれる予定の方はあわせて記載下さい。
- ◆バスに同乗されずに現地集合でも取材可能ですし、道の駅等からバスを追っていただいても良いかと思えます。
- ◆準備の都合上 参加登録は 1月 25日(月) 9:00までをお願いいたします。

## 中海・宍道湖圏域の大型水鳥と水辺の大自然～斐伊川水系生態系ネットワーク写真展～ 実施概要(案)

### 目的

冬季観光資源としてのポテンシャルを有しながら、一般には十分認識されていない「大型水鳥類」について、その魅力や価値を発信するとともに、多様な主体の連携により進められている、大型水鳥類を指標とした生態系ネットワークの取組みを伝え、地域連携の輪を広げること。

### 写真パネルの構成

斐伊川本川宍道湖、中海、築地松などの斐伊川水系を代表する自然景観の中でたくましく生きるガン類、ハクチョウ類などの大型水鳥類の写真、および斐伊川水系の恵まれた自然を守り育て、活かしていく地域づくりについて解説するパネルあわせて 10 枚程度。

### 展示場所（予定）

自治体	開催場所	開催日程
出雲市	道の駅 湯の川	平成 28 年 1 月 28 日（木） から 2 月 7 日（日）
松江市	道の駅 秋鹿なぎさ公園	平成 28 年 2 月 8 日（月） から 2 月 21 日（日）
境港市	みなとさかい交流館 境みなと・オアシス	平成 28 年 2 月 22 日（月） から 3 月上旬 ※1
安来市	道の駅 あらエッサ	平成 28 年 3 月上旬 から 3 月中旬 ※1
米子市	JR 米子駅	平成 28 年 3 月中旬 から 3 月下旬 ※1

※1 詳細日程につきましては決定次第、国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所ウェブサイト

(<http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/>) に掲載いたします

**主催** 斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる地域づくり検討協議会

**企画** 国土交通省出雲河川事務所 **編集・協力** (公財) 日本生態系協会



写真展実施イメージ

第1回 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

議事要旨

■日時：平成27年4月28日（火） 14：00～16：00

■場所：ニューウェルシティ出雲所 2階 牡丹

■議事内容

1. 開会
2. あいさつ
3. 出席者紹介
4. これまでの取組状況について
5. 設立趣旨（案）、規約（案）について
6. 会長の選出
7. 議事
  - （1）取組の背景について
  - （2）指標種の選定について
  - （3）検討体制および今後のスケジュールについて
8. 閉会

■検討協議会風景



■出席委員

構成	氏名	団体名等
専門家	生物多様性	涌井 史郎 東京都市大学 教授
	河川	梶川 勇樹 鳥取大学 助教
	鳥類	佐藤 仁志 (公財)日本野鳥の会 理事長
	水生動物	林 成多 (公財)ホシザキグリーン財団 主任研究員
	植物	井上 雅仁 島根県立三瓶自然館サヒメル 課長代理
関係団体	糸原 直彦 出雲商工会議所 専務理事	
	岡田 達文 島根県農業協同組合出雲地区本部 副本部長	
	小野 篤彦 出雲観光協会 事務局長	
	内村 哲也 (一社)出雲青年会議所 副理事長	
	片寄 巖 神戸川漁業協同組合 代表理事組合長	
	原田 孟 NPO法人いずも朱鷺21 理事長	
	青木 広幸 NPO法人国際交流フラワー21 理事長	

関係行政機関	野口 武人 出雲市 副市長
	板倉 優 出雲市 都市建設部長
	舩田 直樹 国土交通省出雲河川事務所 事務所長
	後藤 尊宜 島根県 地域振興部 しまね暮らし推進課 中山間地域支援G
	小林 長利 島根県 環境生活部 自然環境課 自然保護G
	森山 貢 島根県 環境生活部 環境政策課 宍道湖・中海対策推進室
	曾田 深志 島根県 農林水産部 農村整備課
	嘉本 美智子 島根県 農林水産部 森林整備課 鳥獣対策室
深田 明 島根県 土木部 河川課神戸川対策スタッフ	
事務局	出雲市
	国土交通省(出雲河川事務所)

オブザーバー

関係行政機関	澤志 泰正 環境省 野生生物課 課長補佐
	平井 和登 中国四国地方環境事務所 野生生物課 課長補佐

第2回 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

議事要旨

■日時：平成27年10月13日（火） 14：00～16：00

■場所：ホテル白鳥 鳳凰

■議事内容

1. 開会
2. あいさつ
3. 出席者紹介
4. 設立趣旨、規約（案）について
5. 議事
  - (1) 取組の背景について
  - (2) 生態系ネットワークの推進に向けて
  - (3) 検討体制および今後のスケジュールについて
6. その他
7. 閉会

■検討協議会風景



■出席委員

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会  
出席者名簿

日時：平成27年10月13日（火）14:00～16:00  
場所：ホテル白鳥 鳳凰

構成	氏名	団体名等	
専門家	生物多様性	涌井 史郎	東京都市大学 教授
	鳥類	佐藤 仁志	(公財)日本野鳥の会 理事長
	報道	船越 幹洋	(株)山陰中央新報社 地域振興局長
関係団体		古瀬 誠	中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会 会長
		谷本 晴美	鳥取西部農業協同組合 代表理事組合長
		影山 善一	鳥根県農業協同組合(代表理事組合長代理) 常務理事
		飯橋 一春	中海・宍道湖観光協会会議 会長
		渡部 巧	中海漁業協同組合 代表理事組合長
		原 俊雄	宍道湖漁業協同組合 代表理事組合長
		片寄 巖	神戸川漁業協同組合 代表理事組合長
		神谷 要	米子水鳥公園 館長
		原田 孟	NPO法人いずも朱鷺21 理事長
		青木 広幸	NPO法人国際交流フラワー21 理事長

関係行政機関	長井 仁志	米子市市民環境部長(米子市長代理)	
	佐々木 史郎	市民生活部長(境港市長代理)	
	松浦 正敬	松江市長	
	長岡 秀人	出雲市長	
	横田 一道	安来市政策企画部長(安来市長代理)	
	舩田 直樹	国土交通省出雲河川事務所	
	吾郷 朋之	鳥取県 生活環境部	水・大気環境課 水環境保全室長
	濱江 謙二		緑豊かな自然課長
	足立 誠	鳥取県 農林水産部	農地・水質保全課
	丸毛 裕治	鳥取県 県土整備部	河川課長
	倉元 秀樹	鳥取県 西部総合事務所	米子県土整備局長
	奥原 徹	鳥根県 地域振興部	しまね暮らし推進課 地域づくり支援グループ グループリーダー
	森山 貢	鳥根県 環境生活部	環境政策課宍道湖・中海対策推進室長
	小林 長利		自然環境課自然保護グループ グループリーダー
	岸田 佳之	鳥根県 農林水産部	農産園芸課 有機農業グループ グループリーダー
	嘉本 美智子		森林整備課鳥獣対策室 企画員
	深田 明	鳥根県 土木部	河川課神戸川対策スタッフ 調整監
事務局	国土交通省(出雲河川事務所)		

オブザーバー

関係行政機関	瀬川 涼	環境省	米子自然環境事務所自然保護官
	丸山 永	中国四国地方環境事務所	松江自然保護官事務所自然保護官
	菅本 次郎	農林水産省 中国四国農政局	農村振興部農村環境課環境保全官

# 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり

## ○生態系ネットワークに取り組む目的

私たちの社会活動、経済活動に様々な恵みをもたらす自然生態系を守り育て、未来に継承していくためには、生態系ネットワークの形成という考えが重要となる。急激な人口減少・少子化、防災・減災、及び、地球環境問題などといった、全国レベルでも地域レベルでも深刻化する各種課題への対策を効果的に進めるためには、生態系ネットワークの形成による自然生態系の保全・再生は、欠くことができない要素と言える。斐伊川水系を取り巻く自然条件・社会条件は、生態系ネットワークの形成や、自然環境を活かした地域振興を進める上で、全国有数の好条件を備えた地域となっている。

- ・数十年は避けられない、全国レベルの人口減少
- ・地方から都市部への流出超過、人口の地域的な偏在(ストロー効果)

人口減少しながらも、大都市圏との対流をおこすための「内燃機関」の構築・確保

地域  
ブランド  
確立

- ・世界に例を見ない超高齢社会への到達
- ・国家間、都市間での人やモノ、情報を巡る競争の激化
- ・まちとしての活力の低下の懸念

おとずれてみたい、住んでみたい、持続可能なまちづくり

観光振興

生態系  
ネットワーク形成

防災減災の  
推進

- ・良好な自然環境の喪失による、生物多様性の損失
- ・生態系サービスの低下に起因する各種産業の衰退
- ・気候変動の影響等による、農業生産の不確実性増大
- ・新興国の経済発展・人口増に伴う食料等の価格上昇

過去に失われた自然環境の保全・再生と、その持続可能な利用

地方創生

- ・風水害、土砂災害の頻発・激甚化の懸念
- ・地球温暖化に伴う気候変動によるリスクの増大
- ・都市化・土地の高度利用に伴う社会的脆弱性の増大
- ・防災・減災施設を始めとする社会資本の老朽化

自然環境を活用した土地利用・社会資本整備(グリーンインフラ)の推進

### 斐伊川水系を取り巻く自然条件

- ・斐伊川水系は、ラムサール条約登録湿地に象徴される、多くの大型水鳥類が集まる国際的評価の得られた豊かな水辺環境を有している。
- ・特に、わが国の陸水域に生息する希少な大型水鳥類は、①ハクチョウ類 ②ガン類 ③ツル類 ④コウノトリ ⑤トキの5つに大別されるが、これら全てが安定的に生息可能となる潜在性を持つ地域は、斐伊川水系が国内唯一である。

### 斐伊川水系を取り巻く社会条件

- ・生態系ネットワークの推進が、国の主要環境政策として位置付けられている。
- ・河川や農地等での関連環境施策の集積が見られ、生態系ネットワーク形成のテーマに基づく官民の広域連携による一体的な活動や事業化を進めるうえでの施設や人材ストックが充実している。
- ・現在、佐渡市のトキや豊岡市のコウノトリ等々、大型水鳥類をシンボルとした地域振興が活発化しているが、斐伊川水系では地域固有の全国や海外にアピール可能な資源価値を有している。

本取組では、国際的に重要な湿地である宍道湖・中海を中核として見据え、大型水鳥類を指標とした、水辺環境の保全・再生と地域経済の活性化が両立した生態系ネットワークの形成を目指すものとする。

# 5つの大型水鳥類が生息できる日本で唯一の地域「斐伊川水系」

日本に生息する  
希少な大型の水鳥類は、  
主に5つにわけられます。

- ① ハクチョウ類
- ② ガン類
- ③ ツル類
- ④ コウノトリ
- ⑤ トキ

斐伊川水系 <ひいかわすいけい> には・・・

- ① ハクチョウ類 ② ガン類 ③ ツル類 …毎年冬に飛来します。
- ④ コウノトリ …飛来もたびたび目撃されています。
- ⑤ トキ …かつて生息していました。



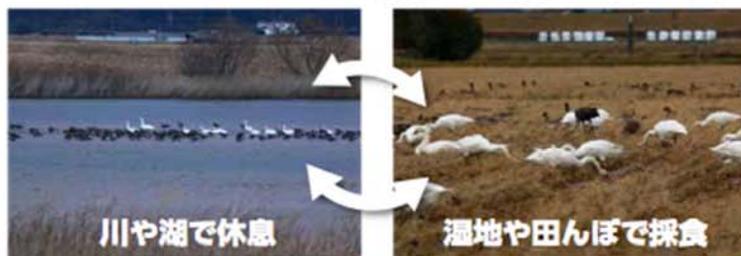
斐伊川水系には日本で唯一、これら5つの大型水鳥類が安定的に生息するポテンシャルがあります。これらの大型水鳥類がくらせるように、環境づくりを進めていきます。

国際的に重要な湿地である宍道湖・中海を中核として、  
大型水鳥類を指標とした自然環境の保全・再生と地域経済の活性化が両立した  
生態系ネットワークの形成を目指します

大型鳥類を  
指標とする  
メリット

## 1 自然と調和した多様な環境が一体的に存在することの象徴

大型水鳥類の多くは、まとまった良好な水辺を広範囲に移動して生息・繁殖・越冬する習性をもつことから、行政界の枠を越えた広域レベルの水系ネットワークの指標として適した存在です。



## 2 色々な生きものがくらせる環境の象徴

大型のガン類やハクチョウ類、ツル類が生息できる河川・湖沼やまとまりのある湿田や湿地は、小型の水鳥類をはじめ多くの生きものがくらしがける環境条件を有しています。



## 3 アピール性が高く、広く受け入れやすい

ハクチョウ類やコウノトリなどの白い鳥、ガン類など群れで行動する鳥は目にとまりやすく、取組の効果をアピールするのに適しています。



# 今後のとりくみ

中海・宍道湖・大山圏域の経済、観光、農業、漁業、行政、専門家などの多様な主体が集まり、人と大型水鳥類が共生する魅力的な地域づくりにむけた取組を始めています。

## 生態系ネットワーク形成にむけて

### 中海・宍道湖・大山圏域の 関係者が集まって話し合う場

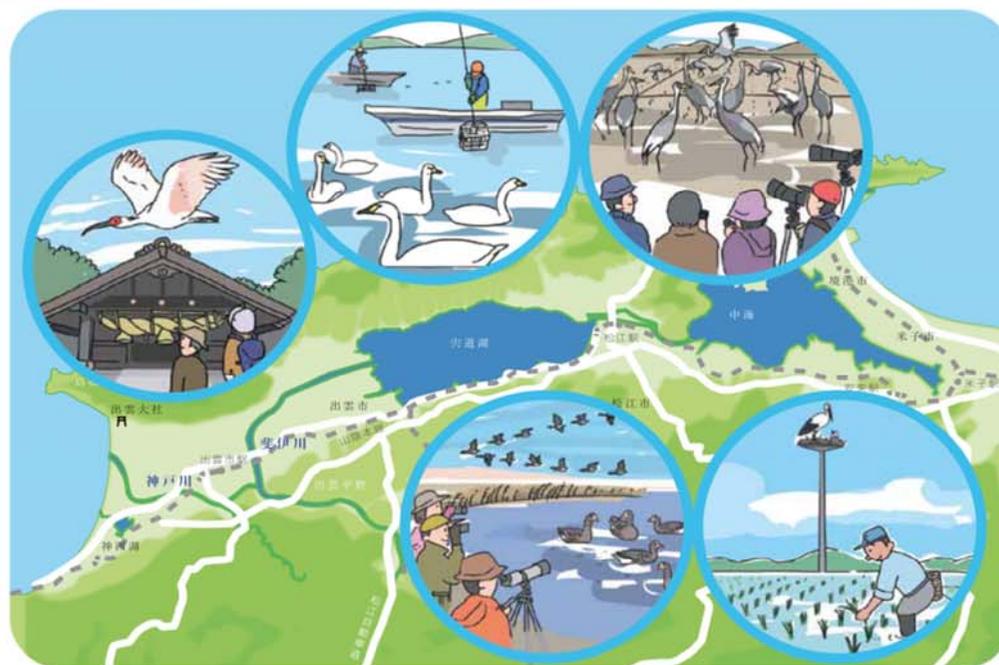
人と大型水鳥類がともに暮らす地域づくりの実現と、地域の魅力を引き出すための取組を行います。

大型水鳥類が  
くらしやすい  
流域を考える場

大型水鳥類がくらしやすいよう、河川・農地などの環境の改善方法をみんなで考えます。

大型水鳥類の  
魅力を活かす  
仕組みについて  
考える場

大型水鳥類が舞う地域の魅力を、農業・観光などの観点からみんなで考えます。



#### ● 農産物のブランド化



#### ● 冬季の観光資源



写真：佐藤 仁志（公財）日本野鳥の会

#### 大型水鳥類の 魅力を 活かす例

#### ● お土産の開発



#### コウノトリをモチーフにしたお土産など

